

平成29年度 第1回 評価委員会の意見要旨

1. 小項目の業務実績等について

第1-1-（1）救命救急センターを含む救急医療

・「評価5」というのは、「著しい実績、成果があった場合」の最高の評価であるので、第2期中期計画期間中、救急医療については、「評価5」をずっと維持していくというのも、全体の評価結果とのバランスを見た時に、どうだろうかと思う部分はある。

・前年度と比べて目標指標が増加しているのので、評価を下げる要素はないように思う。実績は素晴らしいが、一方で、職員の方の負担も増加しているのではないか。次期中期計画も含めて、救急医療についてはどれぐらいの指標が限度なのか検討しておく必要がある。

→（法人意見）

医師をはじめ、特に看護師の負担は大きくなりつつある。職員の配置を増やすなど、院内の運営で対応している。ご指摘のとおり、数が増えれば、職員の負担が増えるという循環が繰り返されることや質の問題もあり、地域での役割分担の中で、どれぐらいが一番適正なのか考えていく必要はあると思う。

・救急医療については、搬送受入件数など数字に着目してしまうが、質的にも地域で頑張っていると思うので、評価できると思う。

・救急医療について、堺市立総合医療センターの二次医療圏内での役割分担は進んでいるか。

→（法人意見）

救命救急センターでは、外因性疾患について重点的に対応している。脳血管障害、循環器疾患については、救命救急センターが設置された後でも、従来通りの各二次救急医療機関が連携をしながら対応し、それぞれの役割を果たしている。

第1-1-（2）小児医療・周産期医療

・小児救急医療については、堺市こども急病診療センターと隣接しており構造的にかなり評価できることに加えて、小児科もかなり頑張っているのので、もう少し評価しても良いと思う。

第1-2-（1）がんへの対応

・がん相談件数が増加しているが、どのような相談が多かったのか。また、今はがん患者の方への就業支援が注目されているが、そういったことについて取組みをされているのか。

→（法人意見）

がん相談については、窓口を多く設置したことや、各病棟のリンクナースを経由して相談を受けたことで、相談できる機会が多くなり件数が増加した。

就業支援については、ポスター等の掲示を行っている。また、がんを告知する際に就労内容について把握し、どうしたら仕事を続けながら治療できるのか退職されてしまう前に相談できる体制をとっている。

- ・緩和ケア病床については、病院ごとではなく市内の病院で一定の定義づけをするべきだと思う。

- ・堺市立総合医療センターでは、緩和ケアやがん予防に関して、どのような役割を担おうと考えているか。

→（法人意見）

堺市では、喫煙率が高く、がん検診受診率が全国でも低い水準である。医療も大切だが予防も大切である。がん予防対策については堺市や堺市医師会と協力しながら行っていく必要があると考えている。

第1-3-(1) 医療安全対策の徹底

- ・医療安全対策については、職員で知識が均一化されていることが重要だと思う。全職員が研修をきちんと受講されていることは評価できる。

- ・インシデント、アクシデントレポートのうち迅速に対応すべきものについては、すぐに診療科に伝わっているのか。

→（法人意見）

インシデント、アクシデントについては、電子カルテシステム内で報告できるようになっており、アクシデントが発生時には事故調査を実施し、公開をしている。

第1-4-(2) 地域での医療従事者の育成

- ・法人自己評価は「評価5」であるが、その根拠となる部分はどこか。

→（法人意見）

初期研修医への研修については、大阪府における研修内容についてのアンケート調査でベストスコアをいただいた。

また、看護局では、出前でレクチャーを昨年夏ごろから始めており、院内だけではなく、近隣病院にもレクチャーを行っている。対象についても、看護師だけでなく、訪問看護師、ヘルパー、介護士など、今後のニーズに答えられるよう対応している。

- ・教育の評価というのは、何年後かに、卒業された医師がどこで何をされているかというのが大事だと思う。堺市立総合医療センターで研修を受けられた医師が、地域で頑張られているということをお聞きしているので、教育は非常に良くされていると思う。

※ 第2-1-(1) 自律性・機動性の高い組織づくり から 第4-1 環境にやさしい病院運営 までについては、次回に審議継続。